

リフォーム前後の写真



リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／社会や地域の課題解決に資する取り組み等、審査基準に適合することを示す具体的内容

鎌倉にある空家を現代的な和風の週末住宅として再生した。昨今減り続ける造作のできる大工職人の育成や大工技術の継承に造られていた和風の外観は、そのまま継承し、構造、断熱、換気共に現代の住宅に劣らない性能へと改修した。暗く間仕切りの多かった内部は、天井を取り払い、45mm角の木材を相欠きした格天井を既存の梁組に接合することで水平剛性を補強しながら、天窗や外周部からの光を部屋全体に届けている。本工事は施主である大工とその仲間が施工するため、仕上げや家具造作の殆どを大工工事とし、費用を抑えながらも、格天井を始めとした手間と技術を要するデザインを多く採用し、

2024年7月29日撮影

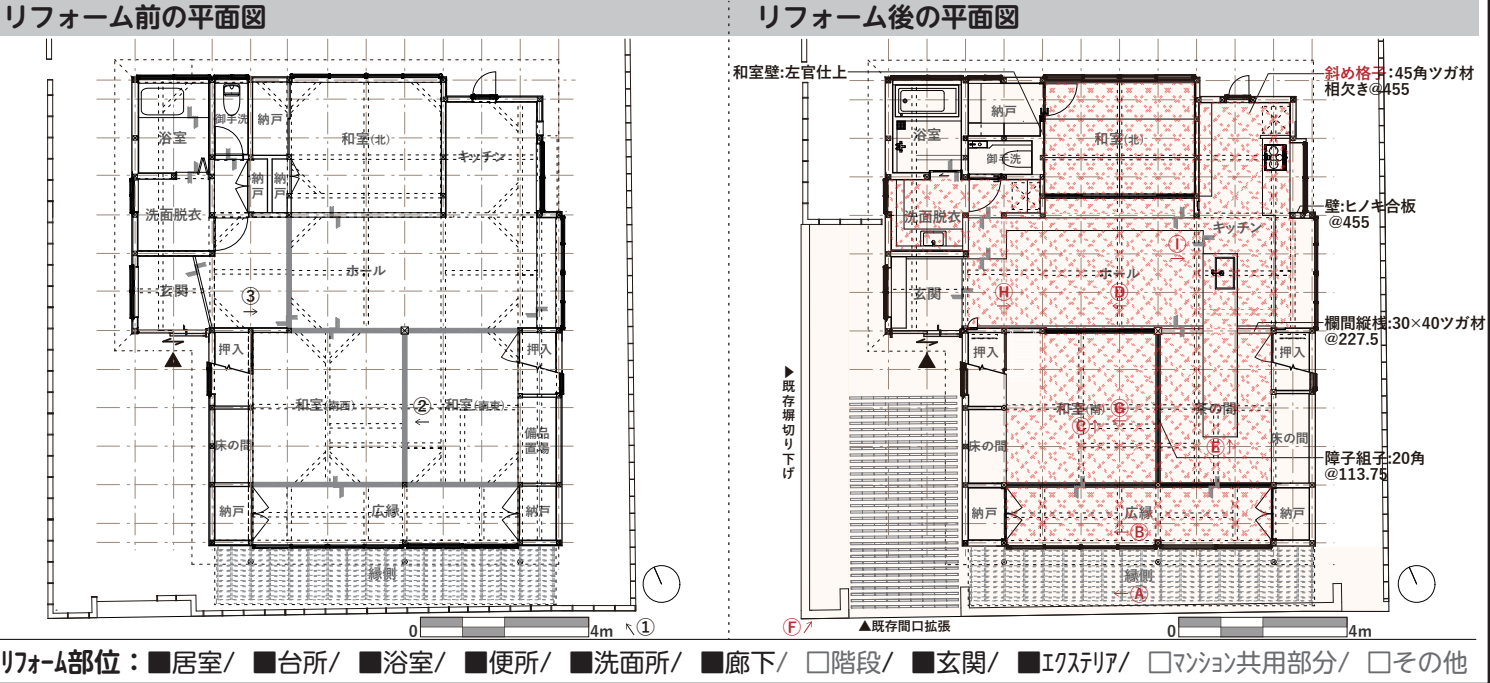
2024年8月28日撮影

2024年11月5日撮影

2025年4月1日撮影

2025年7月23日撮影

右記に該当する場合は✓(審査基準参照)				☒ a.ストックの有効活用		☒ b.技能者不足への対応		☒ c.地域・コミュニティの活性化		☒ d.既存流通の活性化等			
lw値	リフォーム前	リフォーム後	UA値	リフォーム後	0.5	性能向上等、特に配慮した事項	大工・職人技術の継承／数寄屋の寸法体系を残しつつ現代的な内装に昇華／竣工後の地域への開放を考慮した計画／構造材と断熱材の新設						
所在地	神奈川県鎌倉市				新築竣工年	1988 年		築後年数	38 年		施工期間	450 日間	
該当工事床面積	96.26 m ²		総工事床面積	96.26 m ²		該当部分工事費	2,000～3,000万円		総工事費	2,000～3,000万円			
居住者構成	65 歳以上：		人		40 ～ 64 歳：	2 人		15 ～ 39 歳：	1 人		14 歳以下：	人	ペット：



タイトル	鎌倉の格天井		所有・ 建方形式	持家一戸建	設計会社	Inoue Yoshimura studio(株)
			構造	在来木造	施工会社	(株)坂牧工務店

講 評

鎌倉駅に程近く、古い路地や寺社が点在する閑静な住宅街に建つ空き家を、和風の週末住宅に再生したプロジェクトである。施主は工務店を営む大工で、近くの現場で工事を行っていたところ、たまたま設計者を通じてここが売りに出されているのを知り、その佇まいに一目惚れして購入を決断したという。

建物は築38年と比較的新しかったため、構造躯体や外装を活かしながら、その数寄屋風の丁寧な仕事を残したいと考えた。施主の工務店でも最近では純和風の住宅を手掛けることが少なくなり、そもそも和室を見たことがない若い人も増えていて、大工技術の衰退に危機感を持っていた。そこで社員大工の育成を兼ねて、手刻みに長けた大工の父監修のもと、職人の手仕事にこだわった素材と技術でリフォームを行うことにした。

特に象徴的なのは、天井を覆い尽くす格天井ルーバーである。平屋の住宅はどうしても中央部が暗くなりがちだが、天井を取り払って既存天窓からの光を家の隅々まで届けると共に、一尺五寸ピッチで対角に組まれた相欠き(*)格子を魅せることで、従来の和風住宅にはない開放感を生み出している。

構造的には外周壁と屋根面を構造用合板で補強しながら、この格子も水平剛性の確保に寄与している。高い精度が求められる木材加工にもかかわらず、その苦労を微塵も感じさせずに納めているところは技術力の証だろう。またインテリアでは尺モジュールに基づいて壁や欄間の木割りを行いながら、新たに挿入した土間空間の50角タイルに合わせた緊張

感のあるディテールは、伝統だけではない新しい和のスタイルを提示するとともに、住まいとしてだけでなく、店舗やカフェ、イベントなどにも活用可能な空間となっている。外構計画では、家を囲んでいた高い塀を腰高までカットし、門扉も撤去して前庭とするなど、開放感を高めながら街との繋がりを生み出す工夫がなされている。

昨今鎌倉エリアでも、街並みを形作っていた和風住宅がどんどん分割されて建て替えられているという。現在この家は週末住宅やモデルハウスとして利用しているが、今後はNPOなどと連携して地域の子どもたちの居場所に活用する予定で、様々な人に現地を体験してもらいながら、和風建築や手仕事の魅力を広く伝え、大工の就労希望者を増やすと共に、地域の住宅文化の保全に寄与したいと考えているとのこと。

ちなみに、本賞は「木材利用や建築・生活文化の発展・継承に資するもの」を対象に、今年度から新設された。審査では単なる木材活用ではなく、木造文化の発展・継承に資する作品を求めていたところ、それを体現する本作品は、公益財団法人 日本住宅・木材技術センター理事長賞に相応しいものと高く評価された。和風住宅のリフォームではスタイルに目が行きがちだが、技術という観点で見ればデザインの可能性はまだまだ広がる。この賞をきっかけに、木造建築の新しい可能性を目指す人が増えることを期待している。

* 相欠き：木造接続部において、接合する2部材の材厚の半分ずつを互いに欠き取る技法